地域の秋まつりを訪ねて

秋の休日、市内各地でまつりが開催され集まった人々でにぎわいました。地域それぞれの特色があるのもまつりのおもしろいところ。今回は「味」と「演技」で地域の伝統を受け継ぐ２つのまつりを訪ねました。

①本町１丁目（荒町）②野菜神輿 ③本町３丁目（中町）④本町４丁目（西町）

本町秋祭り ４町合わせ

10 月 13 日㈰　本町１～４丁目内

伝統の演舞　獅子舞

本町地区では、獅子が伝わる本町１丁目（荒町）、本町３丁目（中町）、本町４丁目（西町）で布市神社の秋祭りに合わせ２、３年周期で獅子舞を巡行します。ここで行われる獅子舞はなぎなたなどの武器を持った「棒振り」と獅子が戦いを繰り広げるもの。この棒振りの動きは各地区で異なり、独自の技が引き継がれています。本町１丁目で振り子代表を務めた中学生の林さんと森さんは「祖父や父、兄など家族が今まで獅子舞をやってきた。自分もその伝統をつないでいきたい」と意気込みを話してくれました。

全国でも珍しい野菜を使った神輿

本町２丁目（一日市町）が中心となる豊年野菜神輿保存会では野菜神輿を巡行します。この神輿は、栗やダイコン、レンコンやナス、赤トウガラシなど色とりどりの野菜を飾りに使う全国的にも珍しいものです。最近では人手不足のため、地元の若連中に加えて金沢工業大学学生が９月上旬から始まる制作や、祭り当日の担ぎ手として参加しています。

技と技の共演

６町合同の「合わせ」

午後１時、町内を回っていた３組の獅子と野菜神輿がにぎわいの里ののいち カミーノに集結。今年は中林と粟田も特別に出演し６町での合わせが実現しました。

粟田の獅子舞

中林の獅子舞

ずらりと並んだ獅子と神輿、男たちの姿は壮観です。威勢のいい掛け声とともに披露される伝統の獅子舞に観客からは「かっこいい」、「地域で全然動きが違うんだね」などと感動の声が上がりました。

①一晩水に漬けたもち米と小豆を蒸篭にセット。小豆の割合も重要です。②高く重ねられた蒸篭からは蒸された赤ままのいい香りが立ちこめます③荒熱をとる作業。熱い湯気が上がる中、素早い手つきでしゃもじが動かされます。④一パックずつ丁寧に詰められていきます。⑤ずらりと並ぶ赤まま。ごま塩の小袋を添えて完成です。

第 17 回稲荷町 赤まま祭り

9月 22 日㈰　稲荷集会所

言い伝えから生まれたまつり

稲荷町には、赤まま（赤飯）発祥の地という言い伝えがあります。赤ままの伝承、町おこしのきっかけとして平成 15 年、町内会によって赤まま祭りは始まりました。稲荷神社秋祭りに合わせて行われ、地域の伝承にちなんだ赤ままの振る舞い飲食やアトラクションを楽しみます。

地域が育む伝統の味

まつりで振る舞われる赤ままの作り方は、家庭で伝わる作り方を一つ一つ取り入れ試行錯誤したものです。そこに炊き上がりの硬さに応じて、蒸し時間など調整を加えていきます。経験が物を言う作業、経験者と若い人が一緒に作業を行うことで次の世代に知識が伝えられていきます。当日は、早朝から準備が始まり約 700 食分の赤ままが準備されました。

おいしく楽しく盛り上がる

正午には集会所前のテントに子ども神輿を終えた子どもたちや住民が集まり、炊きたての赤ままや具がたっぷり入った手作り豚汁などを頬張りました。ほりうち子ども園の園児による発表などもあり住民の笑顔で溢れていました。

赤ままは会場に来ることができなかった 70 歳以上の地区の人へ届けられます。届けられる赤ままを楽しみにしている人も多いそう。町内会長の森さんは、「町内みんなが楽しめるまつりにしたい」と話してくれました。